

空き家解体数が増加

竹田委員 予算を修正して増額した。実績と増えた評価はどうか。

建設課長 補助金の交付件数は10件であり、令和3年度の10倍となった。事業の周知に努めたことが解体増につながったのではないかな。

公園の安全管理

金田委員 危険と思われる遊具はあるか。

建設課長 都市公園と呼ばれる施設が8施設ある。うち遊具が設置されているのは4施設。遊具の数は個体数で33となっている。



点検結果は、一部に経年劣化が見られたが、緊急的な修繕、若しくは処分が必要なものはなかった。

消防費

個別避難計画

笹原委員 地域における作成・進捗状況はどうなっているか。

総務課長 各地区の自主防災組織に依頼し、実績は23組織224名分の個別避難計画が策定された。対象となる避難行動要支援者名簿登載者のうち95・2%となった。

教育費

荒砥高校40人入学

山田委員 5年度は荒砥高校に定員の40人が入学できた。町としての総括を伺う。

教育次長 高校魅力化コーディネーターの配置や個別説明会の開催など魅力化に取り組んできた。生徒の習熟度に合わせたきめ細やかな対応がなされ、生徒が自信を持って学習に臨める小規模校の良さを、コーディネーターや学校関係者などから広まり、生徒を確保できたのではないかな。

山田委員 今後の新しい考えや進め方はどうか。

町長 本当に子どもたちのためになるのかどうか議論しながら進めていく必要がある。

日本人ALTの効果

竹田委員 ALT4人のうち1人を日本人にしたことによる成果はどうか。

教育次長 担任の先生とALTとの打ち合わせがスムーズに行われ、より詳しく授業や生徒について共有できるようになった。また児童生徒にとっても、日本語で質問できる安心感もあり、効果は大きいと捉えている。

あゆみしる開館後1年の評価

横山委員 歴史民俗資料館「あゆみしる」の開館後1年の活動の評価と今後の課題を伺う。

教育次長 県外、町内外から853人の来館者があった。企画展では来館者から高い評価を得ており、昔ながら



の稲作体験など工夫を凝らした企画でも集客に努めてきた。

冬季の来館者が少なく、まだ認知度が低いことも課題。さらに工夫や仕掛けをしていきたい。